

2022年度会長プロジェクト
「土木グローバル化総合委員会（仮称）」
設置趣意書

1. 背景と目的

土木工学分野を取り巻く世界的な環境の変化は急速であり、地球規模課題の解決に資するグローバルな視野からの活動が求められているとともに、産業界においてはアジア・アフリカを中心とした開発途上国の建設プロジェクトの増加とそれに伴う建設技術の向上、学界においては国際共同プロジェクトや国際学術誌への論文投稿数などを指標とした研究者評価が重視されるなど、従来の日本が内省的に重要視してきた事柄が世界標準の視点からは認められづらくなっている。また、日本は人口減少や少子高齢化、新規建設プロジェクトの減少など土木工学分野全体の規模の縮小は避けられない状況であり、その中でこれまで培ってきた国際的プレゼンスを維持することは容易ではない。特に将来を担う中堅・若手の技術者/研究者にとって国際活動は重要であるとの認識はあるものの、国内の活動内容や評価制度に則すると具体的に取り組むことに積極的になれないのが現実である。日本の技術力と研究力を世界的に高水準に維持することは、国内の土木構造物や社会インフラ全体の質を高めるためにも重要である。

標記の総合委員会の設置により、世界における土木学会（JSCE）の特徴を生かし、日本の土木（人材、技術）をグローバルにするため、研究者育成を土木学会での重要な課題と位置づけるとともに、「海外インフラ展開の変革のあり方検討委員会（森昌文委員長）」において提言された技術者育成、プロジェクト創成を具現化する方策を検討する。

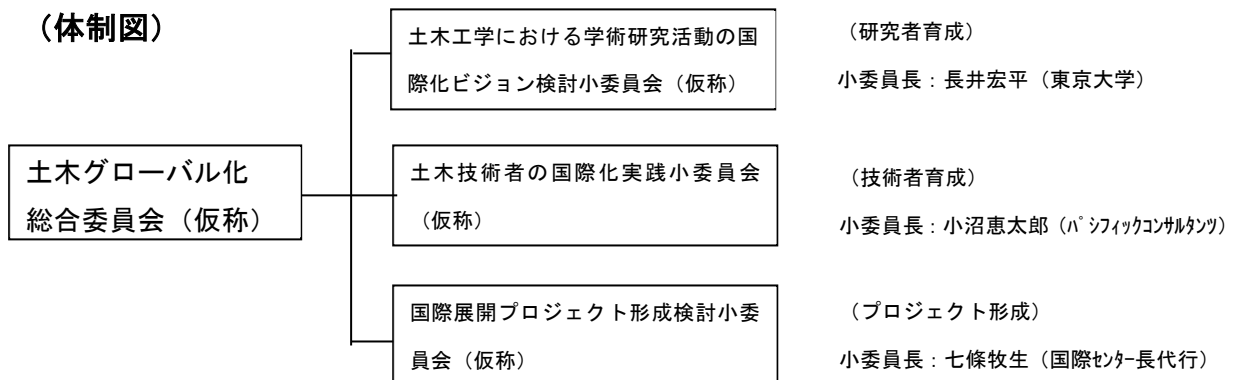
2. 検討内容及び体制

総合委員会は会長プロジェクトとして位置づけ、土木学会の産官学のプラットフォームを生かして、現状の日本の土木の実力を認識し、今後の土木のグローバル化戦略とそのためのアクションを検討するため、産官学の各々の組織の枠組・境界を越えて「情報を共有、議論、連携する」活動を行う。

また、総合委員会の下に3つの小委員会を設置し、委員会委員を中核として以下の取組みについて連携を図り、活動を展開する。委員会構成としては今後のグローバル化を担う若手、ダイバシティー（国籍、性別）を重視する。

各小委員会取組み概要

- (1) 国際的な地位の低下がみられる学術研究分野の次世代への方向性を示す（研究者育成）：土木工学における学術研究活動の国際化ビジョン検討小委員会（仮称）
 - 1) 土木学会国際ビジョンの提示や土木学会国際アクションの策定を行う。
 - 2) 研究助成の拡充推進や英文論文に関する賞（国際センター独自のもの）の設置を検討する。
- (2) 世界で仕事ができる土木実務技術者を体験させることにより育てる（技術者育成）：土木技術者の国際化実践小委員会（仮称）
 - 1) 実務者を対象とした国内セミナーの開催、海外視察を行う。
 - 2) 若手技術者自身で国内セミナー、海外の優れたプロジェクトの視察を企画する。
- (3) 世界が選ぶプロジェクトを創成する（プロジェクト創成）：国際展開プロジェクト形成検討小委員会（仮称）
 - 1) 複合的な課題解決や技術革新等への対応、PPPプロジェクト形成など新たな事業形態について実践的に議論を行う。



4. 総合委員会構成メンバー

委員長：上田次期会長

委員：会長、次々期会長、国際部門理事、国際センター長、国際センター長代行、国際センター教育グループ次長、大学関係、国土交通省、JICA、ゼネコン、コンサルタント、金融、事業者、ACECC 経験者、小委員会委員、外国人技術者、女性技術者など幅広い領域から構成

5. 設置期間

総合委員会としての設置は、当面の間常設として5年を目途に見直しを行う。

令和4年度の活動は会長プロジェクトと位置づけ国際部門が担当（事務局：国際センター）し、2年目以降は国際センターにその活動を移管する。

以上